

平成25年度第1回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会の概要

- 日 時： 平成25年4月23日（火） 10時30分～12時00分
- 場 所： 京都市立病院 4F会議室
- 出席者： 理事長 内藤 和世
理 事 新谷 弘幸, 桑原 安江, 大森 憲, 位高 光司, 山本 壯太,
能見 伸八郎, 木村 晴恵
監 事 長谷川 佐喜男

1 開会

2 議事

(1) 地方独立行政法人京都市立病院機構事務分掌規程の改正について

- 緩和ケア病床には、どのような特徴があるのか。
→・ 他の病院では、緩和ケア病棟として運用する例が多いが、本院では、緩和ケア病床として10床確保し、治療をしながら、その人に合った緩和ケアを受けることができる。メインとなる痛みを緩和し、痛みが治まれば一般病床に移ることもできる。緩和ケア科には、部長1名のほか臨床心理士1名を新たに採用し、がん専門看護師、認定看護師の4名体制でスタートしている。ベランダに植栽をおくなど、心理的なケアにも配慮している。

(2) 地方独立行政法人京都市立病院機構役員報酬等規程の改正について

(3) 地方独立行政法人京都市立病院機構病院等管理規程の改正について

- 肛門外科が標榜科から削除されるが、診療がなくなるのか。
→・ 総合外科、消化器外科で診療を行う。
- 外来診療受付時間が午前11時までというのは、少し早いのではないか。
→・ 一般的には、午前11時で設定している病院が多い。これまでは、診療科によって受付時間が異なっていたので、今回統一した。
- 実際に外来診療が終わるのは何時ごろか。
→・ 新患であれば、午前に受付をした人が、午後4時ごろになることもある。
- 一番早い患者さんで何時ぐらいに来るのか。
→・ 以前は午前6時ぐらいに来ている人がいた。完全予約制になってからは、早い時間に来る人は減った。
- 京北病院の診療受付時間は変わらないか。
→・ 変わらない。

(4) 平成25年度地方独立行政法人京都市立病院機構補正予算（案）について

- 医療廃棄物を廃棄する際に、どのように対応する必要があるのか。
→・ 特定医療廃棄物として、指定業者によって管理された形で処理しなければならない。
- 土壌汚染はあるのか。
→・ 土壌汚染には至っていないが、法人として排出者責任を果たし、真摯にかつ積極的に対処する姿勢を取る必要がある。

3 報告等

(1) 委託業者による京都市立病院機構の会計システム情報の紛失事案について

- 業者はどういった目的で自社のパソコンにデータを移したのか。
- ・ 印字位置の調整作業を時間内に仕事を終えることができず、自社に持ち帰って仕事をするためにデータを移したと考えられる。法人としては、個人情報の持ち出しは認めていないものである。
- 業者に悪意はなかったのか。
- ・ データは他に利用できるものではないので、悪意はないと考えている。あくまでも仕事を遂行する目的でデータを持ち出したと考えている。
- 調査・検証委員会に外部委員を入れる必要はないのか。
- ・ 委員会は責任追及のためでなく、実態の把握と再発防止のためのもので、内部で処理を進めていくものである。

(2) 経営状況月次（3月分）報告

- 整備完了して、病院機能が十分に発揮されるまでどのぐらいかかるか。
- ・ 一般的には、移転後2～3年かかるといわれる。その影響を最小限に抑えるために工夫していきたい。
- 病床利用率の目標は変えられるのか。
- ・ 一般病床利用率が88%以上あれば黒字である。病床利用率の目標は変えない。
- 患者の新患に対する評判はどうか。
- ・ 病室が広く、明るくなり、環境も良くなった。
 - ・ 苦情としては、個室料の値上げ等がある。
- 京北病院は3年で右肩上がりに収益が伸びているが、どのような背景があるのか。
- ・ 職員の意識の改革が大きい。平成21年度までは、都市型の医療（急性期医療）を提供するという方針で運営をしていたが、法人化以降は、役割分担を明確にし、地域包括ケア、在宅医療等に力を入れた。そのことが、地域住民、職員からの支持につながっていると考えている。老健に転換したことも、方向性として間違っていなかった。
- 先日、地域包括ケア推進機構の発表会でも京北病院職員の対応が良くなったと報告を受けた。
- ・ 京北病院は、府の在宅療養あんしん病院として登録者数は府内でもトップクラスである。地域住民から支持されている証拠だと考えている。

4 閉会